

国が力を入れるロボット産業は、つくば地域でも特に盛んな分野だ。世界初のサイボーグ型ロボットであるロボットスーツ「HAL」を生み出したサイバーダインを筆頭に、産学官連携のもと「人間とロボットが共存する社会」の実現に向け、人の生活支援にロボットを活用する取り組みに力を入れている。

つくばの新たな挑戦

7

イノベーションエコシステムの構築

ロボット研究

学問の垣根を越えた研 究がしやすい文化が あ

県も実証支援

茨城県も本年度か

業にとつては大きな 力だ」と強調する。

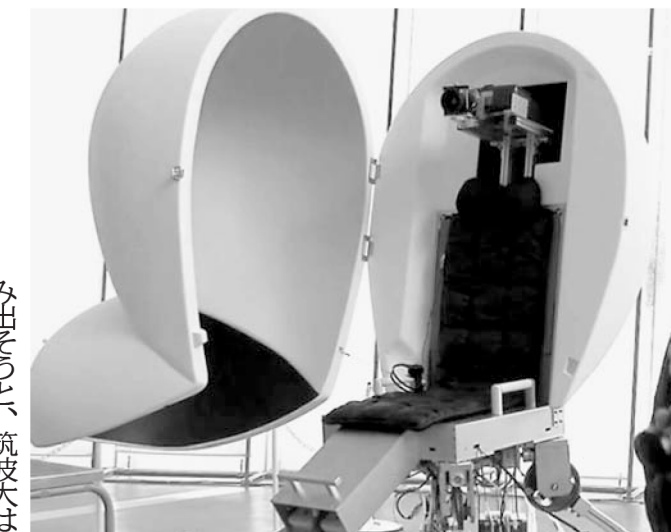
産業界技術総合研究 所は、改良が必要な場 合に12件を採択し、

け、県は7月に「ロボ

降の県の政策に生か

は「筑波大や産総研

ットに生かせる茨城の



27日のつくばプロモ

ノベーション・エコシ

や産総研、物質・材料

の提案も行う。筑波大

み出そうと、筑波大は

つくばに集積する技術

27日には同大東京キ

最新の研究に関するデ

「重介護ゼロ社会」目指す

で、介護される側の治

療、介護する側の負担

は人とロボットが共存

優位性だ。サイバーダ

インをはじめロボット

業をさまざまな形で応

最新技術を披露

HALに続くロボッ

区)で「つくばプロモ

ーションイベント(隔週木曜日に掲載)

働の現場で重いものを

運ぶ人の動きなどをサ

ポートでき、大手企業

や地元の金融機関、介

入が進んでいる。

「HALの開発を後

このほか、国が1月

HALに続くロボッ

最新の研究に関するデ

「HAL」に続け

サイバーダインは筑

波大学教授の山海嘉之

社長が2004年に設

立。同社が手がけるH

ALは装着することで

身体機能の改善、補

助、拡張ができる。要

の環境の良さだ」と山